



生物有機化学講座

教授

なか じま のり ひろ
中 島 範 行

(1961生)

薬学博士

(北海道大学・

平2)

【経 歴】東京理科大学薬学部卒（昭59.3）、北海道大学大学院薬学研究科修士課程修了（昭61.3）、同大学院薬学研究科博士課程中退（昭61.5）、同教務職員（昭61.5）、同助手（平2.11）この間、米国イリノイ州立大学博士研究員（平4.9～6.3）、（勸）相模中央化学研究所（平6.4～7.9）、富山県立大学工学部助教授（平7.10～17.3）、富山県立大学工学部教授（平17.4～）

【担当科目】生物工学専攻：有機合成化学、生物工学科：有機化学3、生体高分子化学 他

【専門分野】有機化学、有機合成化学

【論文・報告】「14員環及び16員環構造を有するマクロリドの立体選択的全合成」（学位論文）

「Toward the assignment of liposidomycin stereochemistry: Synthesis of 1, 4-diazepan-3-one analogues by reductive amination approach」Heterocycles, 2003

「プロアントシアニジンの立体選択的合成研究とその生物活性」有機合成化学協会誌、2005,

Synthesis of structure well-defined triglyceryl di-, tri-, and tetra-fatty acid esters as the new oil gelator, Synthesis, 2008,

【所属学会】日本薬学会（昭59～）、有機合成化学協会（昭60～）、アメリカ化学会（平5～）、日本農芸化学会（平7～）、茶学術研究会（平16～）

【現在の研究課題・概要】

生理活性や機能性を有する物質を探索し、最先端の有機化学的視野に基づいて研究している。新しい合成法や変換法を検討し、構造－活性相関を明らかにするとともに、新規医薬農薬や機能性物質の創成に向けての基礎研究を行っている。

現在の主な研究課題として

- (1) ペプチドグリカン生合成阻害剤に関する研究：リポシドマイシン類の立体化学の決定ならびに合成を行い、治療効果の高い薬剤の創成をめざす。
- (2) プロシアニジン類の合成と活性：より高度で複雑な構造を有するプロシアニジン類（カテキン類の重合体）の合成と活性評価を行い、高機能な物質の創製を行います。
- (3) ポリグリセロールの合成と機能性：直鎖および環状ポリグリセリンの合成を通じてその機能を探索し、機能性素材や配位子、触媒の開発へと展開します。